地質ニュース566号，48－49頁，2001年10月
Chishitsu News no.566, p.48－49, October, 2001

ユニークな
地質系博物館
(23)

モンゴル国自然史博物館

高橋裕平[1)]

2001年夏にモンゴル国で開催の研究集会に参加した折り，モンゴル国自然史博物館をじっくり見学することができた．以下に当博物館見学のポイントをかいつまんで記す．なお，小論をまとめるにあたり，モンゴル科学アカデミー古生物研究センターN. Ichinnorovさんから資料提供や氏名の英文表記などで協力を受けた．ここに謝意を表する．

当博物館（写真1）はモンゴル観光におけるウランバートル市内必須のスポットで，夏にはひっきりなしに観光客が訪ねる．町の中心街にあり，交差点を挟んで斜め向かいには国会がある．仮に観光ツアーに参加せず，フリーに当地に訪れたとしても，タクシーの運転手に博物館（ミュジー）と言えば，たいていはここへ案内されるだろう．さらに恐竜（デノザウルス）と言えば確実にこの博物館である．

当博物館は，夏季には10時から17時30分まで毎日開館していて，入館料は1,700ツグルグ（約200円）である（2001年8月21日現在）．このほか恐竜の写真撮影には5,500ツグルグ（約650円）が必要である．

当博物館はモンゴルでもっとも古い公立の博物館で，博物館のパンフレットによると1924年創立の自然

写真1　モンゴル国自然史博物館正面．

1）産総研 北海道地質調査連携研究体

博物館にさかのぼる．その後，場所をたびたび移し，1954年に博物館30周年を記念して現在の地へと落ち着いた．名称も何度か変更があり，現在の名称は1992年からである．

建物は重厚で，中はじっくりと物を見てもらうようになっている．日本の博物館のような映像や音声で訴えるような設備はない．説明文の多くはモンゴル語だけだが，一部は英語も添えられている．建物は3階建てで，1階が地球・宇宙科学の展示からなる．2階の半分が古生物，残る半分が昆虫や魚類それに植物，3階は鳥や哺乳類の展示である．部屋番号は41まであるが，一部改修中で見ることができない．館内には売店があるが，ウランバートル市内の観光みやげ屋とあまり変わらない内容で，博物館ならではという内容ではない．ただし，以前には最新のモンゴルの地質図を安く販売していたことがあったので一応見たほうが良い．掘り出し物があるかもしれない．

順路にしたがって最初に入る部屋の主題はモンゴルの地勢一般である．地質学的には，最初のモンゴル全土の地質図が興味深い．ロシア科学アカデミーV.A.Obruchevの1892年からの約60年間にわたるモンゴルでの調査の集大成で，1957年に完成した（高橋，1999）．さらに進むとモンゴルの岩石標本が展示してある．一部モンゴル語だけの表示であるが，ロシア語（の発音）を少しでもかじっていれば大方理解できる．地質調査の様子を描いた絵が貼ってあるのがほほえましい（写真2）．モンゴルでは地質の日があるくらいで，国をあげて地質調査に関心が寄せられていることのあらわれであろう．次に地球の断面を示した図や模型がある．さらに進むと宇宙のコーナーがある．標本として目をみはるのがマンレイ隕鉄で，1955年1月モンゴル南部のウムノゴビ県マンレイ村に落下したものである（写真3）．95×40×25cmで，重さ

キーワード：モンゴル，博物館，自然，恐竜

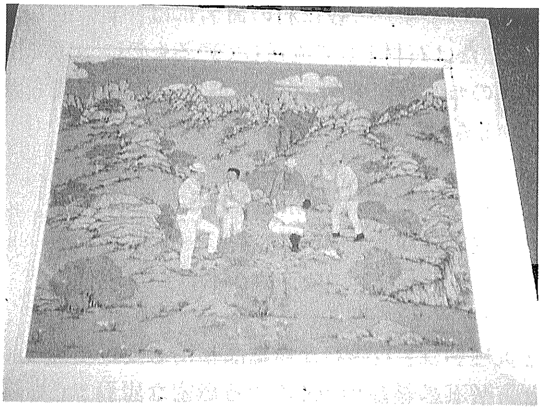

写真2　地質調査の絵.

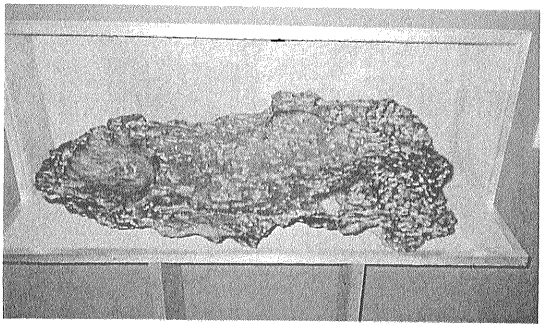

写真3　マンレイ隕鉄の展示.

166.8kgとある．同じ部屋の一方にはモンゴルで最初の宇宙飛行士J. Gurragchaaが使用した宇宙服などの展示がある．ソユーズ39号でソ連（当時）の飛行士と1981年3月22日から30日まで地球を周回した．1階の残りの部屋は資源や鉱物標本を中心としていて，鉱物資源図，原油や石炭の標本，各種の鉱物の標本

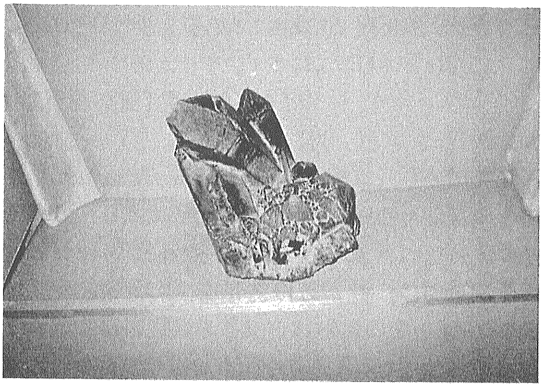

写真4　水晶標本の展示.

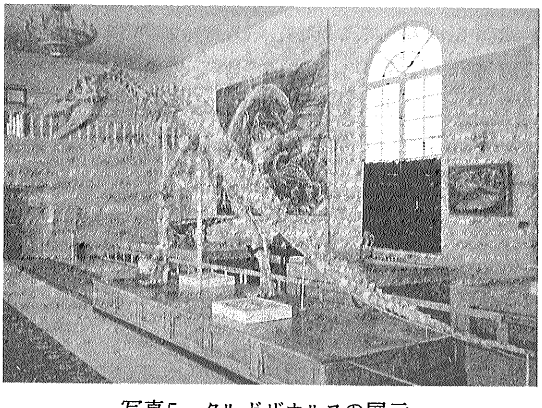

写真5　タルボザウルスの展示.

が陳列してある．モンゴルに多産するアマゾナイトや蛍石の標本が目を引く．貴石として，カルセドニー，アルマンデン，メノウなどの片面研摩標本が整然と並んでいる．巨大な水晶がなにげなく展示してある（写真4）．2階の古生物コーナーには古生代の腕足類，サンゴ，白亜紀の昆虫や魚の化石，恐竜の卵，亀の化石，新生代の哺乳類の化石が展示してある．

そしていよいよこの博物館の，いやモンゴル地質界の宝である恐竜の展示室である．この部分は3階まで吹き抜けになっていて，上から見下ろすことができる．数体の全骨格を復元した恐竜が展示してある．なお，モンゴルの恐竜化石は全て白亜紀層から産する．恐竜標本のうち，ひときわ目立つのがタルボザウルスで全長14-15mに達し，重量2-3トンと推定されている（写真5）．蛇足だが、モンゴルの恐竜について国際的な共同研究が盛んで，日本でも林原自然博物館が積極的にモンゴルと共同研究を行い，恐竜の研究拠点として新たな研究棟をウランバートルに新築した．

当博物館にはこのほか動植物の展示があり，興味深い．例えば，3階はツンドラ，タイガ，ステップなどの気候帯毎に動物を展示してある．

このほか市内には，当博物館から徒歩10分位のモンゴル技術大学に地質鉱物に特化した標本室がある．学生実習などに利用するため，一般向けに開館していないが，あらかじめ予約しておけば見学できる．

文　献

高橋裕平（1999）：モンゴルの地質と調査研究活動．地調月報，v.50，279-289.

TAKAHASHI Yuhei (2001) : Natural History Museum in Mongolia.

＜受付：2001年9月18日＞